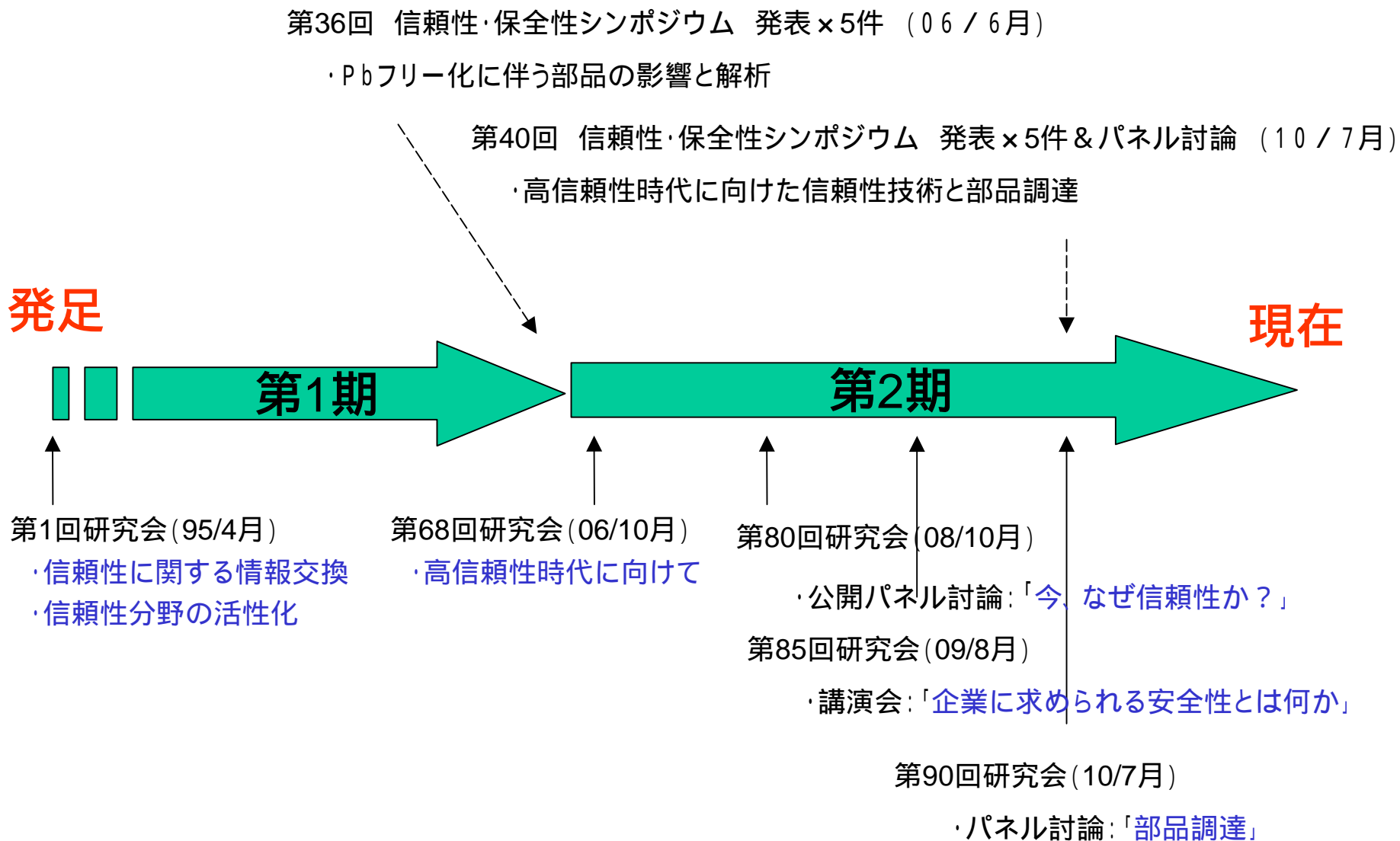


研究会の活動経緯 - 16年間の歩み(第1期および2期) -



研究会テーマ 時代の変化に対応

信頼性(高)

電子部品・デバイスの信頼性向上

電子機器・システムへの適用拡大

高信頼性時代

- ・新たな産業
- ・新たな付加価値
- ・快適・安全の追求
- ・多種多様化(含 価格)

などへの適用拡大

現在

- ・信頼性の要求される機器へ
広く適用

過去

- ・特殊機器
価格・機能に制限

電子機器・システムの規模(大)・機能(高)

研究会テーマ 時代の変化に対応

高信頼性時代

安心安全

高
↑
信頼性

(1) 故障ゼロを目指すもの

- ・宇宙、航空、車両
- ・車載
- ・電力
- ・金融 etc.

(3) 両方を目指すもの

- ・画期的新製品
- ・安心、快適システム

現在

宇宙～家庭用製品まで電子化
高信頼性が要求されるシステム
に、一般部品が搭載されるよう
になった。

(2) 高機能(多機能・大システム)、小型化、適正価格を実現するもの

- ・産業用ロボット
- ・自動制御システム
- ・パーソナルユース etc.

→
(規模)・機能

(大)・高

研究会テーマ 時代の変化に対応

< 第2期方針(06年～) >

【高信頼性時代を観る 知る 創る】

1. 高信頼性時代に向けた知識向上、信頼性技術の向上や信頼性管理の仕組み確立に貢献すること
2. これらを、製品や部品の信頼性向上や安全確保に活かすこと
3. 製品競争力向上、次のビジネスチャンスに繋げること

< 実施事項 >

(試験・解析技術の開発/信頼性の造りこみ/信頼性管理の仕組み造り)

- 初期故障・偶発故障の低減(製品によっては、故障ゼロが目標)
- 寿命末期の見極めと安全確保
- 拡大する使用環境や用途への対応技術(高温、高湿、低温、振動、衝撃、電源環境etc.)
- 高機能・高密度化した電子部品・デバイスや新しい材料への保証技術・管理

研究会テーマ 時代の変化に対応

【基本的な進め方】

1. その時代に相応しい“キーワード”で“活動の柱”を大括り、方向性を明確化
2. “信頼性技術”と“信頼性管理”の両面からアプローチ、成果を体系化

【活動の柱】



【キーワード】

< 信頼性技術 >

良品解析

加速試験

製品安全

< 信頼性管理 >

コスト (機能・コスト・信頼性のバランス)